

高齢者の安気づくり

いつまでも住み慣れた地域で安気に暮らす

高齢者の足を確保

移動支援を行う団体に車を貸与(696万円)

車を無償で貸し出し、高齢者の移動手段の確保をサポートします。新たに1台ずつ清水ヶ丘地区と桜ヶ丘地区の団体へ貸し出します。



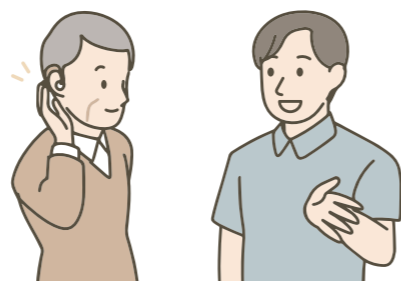
若葉台高齢福祉連合会へ貸与した車両

毎日をおだやかに

難聴高齢者の補聴器購入費を助成(200万円) 新規

高齢者サロンなどで専門家による「聞こえ」の大切さの啓発や簡易な聴力検査を開始します。

併せて、補聴器の購入費を助成し、社会参加の促進と認知症リスクなどの低減を図ります。



市公式LINEでもっと安心・便利に

LINEでつながる、安心の見守り 新規

1人暮らし高齢者の見守りサービスを導入します。LINEメッセージへの応答を通じて、登録した家族などが状況を確認できます。



まちかど運動教室がもっと身近に

LINEで参加履歴の記録や開催情報の受け取りができるようになります。より気軽に参加できるようになります。



まちかど運動教室の様子

令和8年度の予算

住みごこち一番^{プラス}「+」の取り組みを展開

問 財政課 内 2352

「住みごこち一番・可児 すこやかに、にぎやかに、おだやかに暮らせるまち」をより一層充実させるとともに、本市の魅力を広く発信する「住みごこち一番^{プラス}」の取り組みを展開する予算を紹介します。



詳細はこちら

市原産業スポーツフィールド(可児市運動公園グラウンド)

住みごこち一番・可児の充実



本市が目指す将来像「住みごこち一番・可児」の実現に向けた歩みは、市民の皆様や各種団体、企業の皆様方の温かいご理解と力強いご協力に支えられ、一歩ずつ着実に前進を続けております。

令和8年度は、笑顔と活気があふれる心安らぐ生活環境をより一層充実させ、本市の魅力さらさらに磨き広く発信する「住みごこち一番^{プラス}」の取り組みを展開してまいります。

住みごこちの良さを、どこに行くにも何をするにもちようど良い立地を基盤とし、本市の暮らしやすさを市内外に発信し、「可児市に住んでいて良かった」「可児市って良いな」という「実感」と「ときめき」を抱いてもらえるよう取り組みます。そして、国史跡「美濃金山城跡」をはじめとする山城や「美濃桃山陶の聖地」などの歴史、文化、豊かな自然といった本市の魅力戦略的に磨き上げ、発信することで、市民の皆様の愛着と誇りの向上と関係人口の創出を図ります。

子どもたちの笑顔があふれ、若者や女性が自分らしい生き方を選択でき、誰もが安心して暮らせるまちを形にするため、全力を尽くしてまいります。

可児市長 菅原 成樹

予算の概要

会計	令和8年度	令和7年度	対前年度比	
			増減額	増減率(%)
一般会計	393億3,000万円	385億3,000万円	+ 8 億円	+2.1
特別会計	209億3,420万円	197億3,440万円	+11億9,980万円	+6.1
企業会計	88億6,500万円	89億円	- 3,500万円	-0.4
総計	691億2,920万円	671億6,440万円	+19億6,480万円	+2.9